

「シングルス優勝 Matthew EBDEN」

本日の結果

【シングルス】

決勝 Matthew EBDEN(AUS) 2-6/7-6(3)/6-3 添田豪(JPN)

大会最終日。決勝戦が行われるにふさわしい天候と観客に恵まれ、SA12:00 で試合が始まった。対戦カードは Matthew EBDEN(AUS) VS 添田豪(JPN)。

共に世界トップ 100 を経験しており、慶應チャレンジャーの歴史の中でも稀に見るほど、とても熱く濃いストーリーのある試合となった。

ファーストセット、EBDEN 選手のサーブから始まった。両者とも絶対に欲しい序盤で攻めきってポイントを獲得したのは添田選手。いきなり相手のサービスゲームをブレイクして 1-0 とリード。しかし次のゲームすぐに EBDEN 選手がブレイクバック。序盤はブレイク合戦となってしまう、両者ともキープがなかなか出来ない展開となった。その中添田選手が先にキープをして、3-1 リード。

EBDEN 選手のサービスゲーム、40-0 としてすんなりキープするよう見えたが、そこでまさかの 3 連続ダブルフォルト。このミスが完全に仇となり、ファーストセットは添田選手から 6-2。

セカンドセット、ファーストセットの勢いそのまま、隙を見せないプレーを続けた添田選手が 4-1 と大きくリード。しかしそこから EBDEN 選手の怒濤の反撃が始まる。サービスゲームではサーブ&ボレー、リターンゲームではリターンダッシュや速い展開での前への詰め。EBDEN 選手は徹底的に前へ出続けた。

その結果タイブレイクまでもつれ、セカンドセットは 7-6(2)で EBDEN 選手が奪取

ファイナルセット、序盤から添田選手のフォアハンドエースが目立ち、添田選手が 3-1 とリードする。

しかし次の自分のサービスゲームで三本のダブルフォルトをしてしまう。

EBDEN 選手はこの隙を逃さず突き、ブレイクバックに成功する。

このブレイクバックが試合の勝敗をわけることになるとは誰が想像しただろうか。

崩れかけていた EBDEN 選手のプレーに勢いが戻り、添田選手からは焦りを感じ、攻め急いでのミスが多くなった。

その流れが変わることはなく、結果 EBDEN 選手が 2-6.7-6(3).6-3 のスコアで優勝を飾った。決してお互いのプレーが本調子ではなかったが、テニスという競技はメンタルによって勝敗が左右されるということを再認識できた試合であった。

WC 予選から始まった慶應チャレンジャー。二週間の運営を経て様々な選手から多くのことを学んだ。私たち学生にとってこの大会を運営できたことが自分にとってもチームにとっても、大きな一歩となった。

来年またこの慶應チャレンジャーを開催し、より良い大会にするためにも今年の反省を生かし日々努力していきたい。

(慶應チャレンジャー広報部)

本日最終日、添田豪対エブデンの決勝戦は世界トップ選手同士の対戦にふさわしい好ゲームとなった。第1セットを6-2で先取した添田は第2セットも4-1とリード。添田の完勝の雰囲気は漂うが、エブデンがしぶといプレーでつなぎとめる。一方、添田は優勝のプレッシャーからか2ブレイクを許して4-4まで追いつかれる。4-4で迎えたエブデンのサービスゲームで0-40と添田はトリプルブレイクポイントを握る。この場面、0-40でまずエブデンはサーブアンドボレーでポイントを取り15-40とする。このポイントの取り方が素晴らしく落ち着いていて、添田にボディーブローでプレッシャーを与えた。世界トップ100選手の台湾ルーも、0-40の場面でサービス アンドボレーで1ポイント取り返して流れを変えていたことを思い出す。エブデンはその後もネットプレーを混ぜてキープする。そして、流れに乗ったエブデンはとうとうタイブレイクで第2セットをものにする。ファイナルセットも3-1とリードした添田だったが、そこからダブルフォルトなど自らのミスでポイントを落としてしまう。最後は6-3でエブデンが逆転勝

利。添田にとっては悔しい敗戦となった。

敗戦後、添田は『勝たなくてはいけない試合を落としてしまった。この経験を糧に来週の豊田チャレンジャーも全力を尽くしたい。』と悔しさをかみしめていた。一方のエブデンは『第2セットの中盤まで添田のプレーが素晴らしく何もできなかったが、諦めずにファイトを続けた。最後はラッキーもあった。この大会は観客や運営スタッフが素晴らしく、日本滞在は素晴らしいものになった。全豪オープンも全力を尽くしたい。』と振り返った。連日、練習から試合までコート脇で常に応援しながら寄り添うエブデン夫人の姿が印象的であった。まさに2人で勝ち取った勝利。ツアー転戦はチーム力が必要となることを改めて感じた。添田を大会期間中サポートしていたサンギネッティコーチ、前田トレーナーの力も素晴らしかった。

5回目の開催となる慶應チャレンジャー2013は今までの開催の中で最もレベルの高い大会となった。韓国2週（ソウル・ヨンギル）→横浜（慶應）→豊田（ダンロップ）と4週続くアジアスイングにより、数多くのトップ選手や期待若手選手のエントリーにつながった。日本人選手にとってもポイント獲得だけでなく、強い選手との対戦により、よりレベル向上につながる大会になった。特に来年1月に開催される全豪オープン本選入りを目指す選手にとっては最後のチャンスをつかむ大会となった。添田も今週の準優勝で世界ランク105位入りして、全豪オープン本選入りをほぼ確定した。

本日の観客数はトータル約700名。有明では錦織圭対マッケンローのドリームマッチが開催されている中、本当に多くの方々にお越し頂いた。会場は慶應義塾大学日吉キャンパス蝮谷テニスコート。入場料は無料。

最後に、今大会の開催にあたりまして、ご協賛及びご協力を頂きました企業各社の皆様、ボランティアスタッフとして大会を支えて下さった皆様、連日観戦にお越し頂きました皆様、全ての関係者の皆様に対して、心より御礼申し上げます。来年も大会がより一層素晴らしいものとなるよう、スタッフ一同全力を尽くしていく所存です。

（トーナメントディレクター 坂井利彰）

